

働く人の健康を守ること、
それが私たちの
提供する技術です。

詳しくは
こちらをご覧ください >>>



名古屋市立大学大学院医学研究科 労働生活・環境保健学分野

TEL 052 (853) 8171 FAX 052 (859) 1228

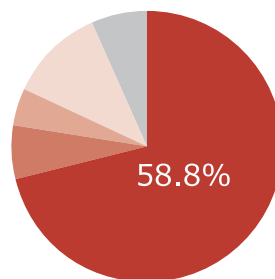
eisei@med.nagoya-cu.ac.jp

私たちは 自主対応型予防活動 の導入支援を行っています。



【ポイント1】 腰痛・肩こり問題から まずは着手します。

- 腰痛や肩こりなどの運動器疾患は、多くの職場において最も一般的な問題であり、病欠休業の主要な原因です。
- 国内においても業務上疾病の約60%は腰痛です。腰痛で死亡することはありませんが、病欠欠勤率の上昇・労働意欲減退など企業の生産性を低下させる原因になります。運動器疾患の予防は、労働者の健康だけでなく、生産性向上のためにも解決すべき課題となっています。
- 腰痛・肩こり問題の作業改善方法は比較的取りかかりやすく、また、効果もよく理解しやすいので、私たちは腰痛・肩こり問題からまず着手して、安全衛生活動の効果や重要性について労働者・経営者の方に体感してもらうことを重視します。



労働災害の内訳（2005、厚生労働省）



【ポイント2】 職場の問題を指摘するのでは なく、良好事例に着眼します。

- 腰痛・肩こり問題に着手する際に、成功する秘訣は「すでにそこにある良い事例」に着目することです。現場の作業者の多くは、作業に熟練すればするほど効率的で楽に作業が出来る方法を考案し、実践しています。そのような実践的に導入されている創意工夫は科学的にも合理的で、有効な対策であることが多いのです。
- 各々の現場に応じた良好事例の知恵を拝借し、他の部門へ応用・水平展開することが問題解決の近道です。
- 私たちは、各事業所に対しファシリテーター（助言、方向付けを行うサポート役）として、どのようなポイントに着眼すればよいかをアドバイスいたします。そして、安全衛生活動の主役は、あくまで現場の労働者であり経営者自身です。



【良好事例1】仕掛品の品質チェック後、そのまま水平にリフターへスライドさせ、移動できる。

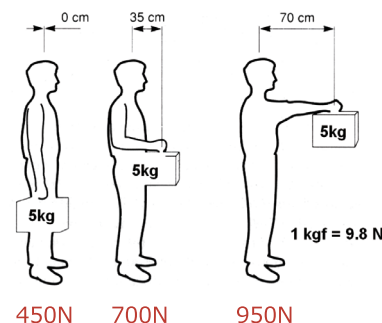


【良好事例2】製品加工部にアクセスしやすいように、机上面を凹み型にカットした。



【ポイント3】 低コスト改善を継続することを 重視します。

- 設備投資や高価な改善ではなく、まずは低コストな対策を考えます。低コスト改善には幾つかのポイント—例えば“エルボールール”—があります。物を扱ったり作業を行う際には、できるだけ肘の高さで、さらに脇が開かない状態で作業するのがもっとも楽になります（右図）。
- 肘の高さを基準に職場を見直してみると、作業面高を調整する足置きを設置するなど、ちょっとした工夫で大きな効果が得られます。
- 低コストの取り組みを継続して行うことで、職場の安全・健康に対する意識向上をねらっています。



扱う重量は同じでも、肘が体より離れると椎間板内圧は高くなる



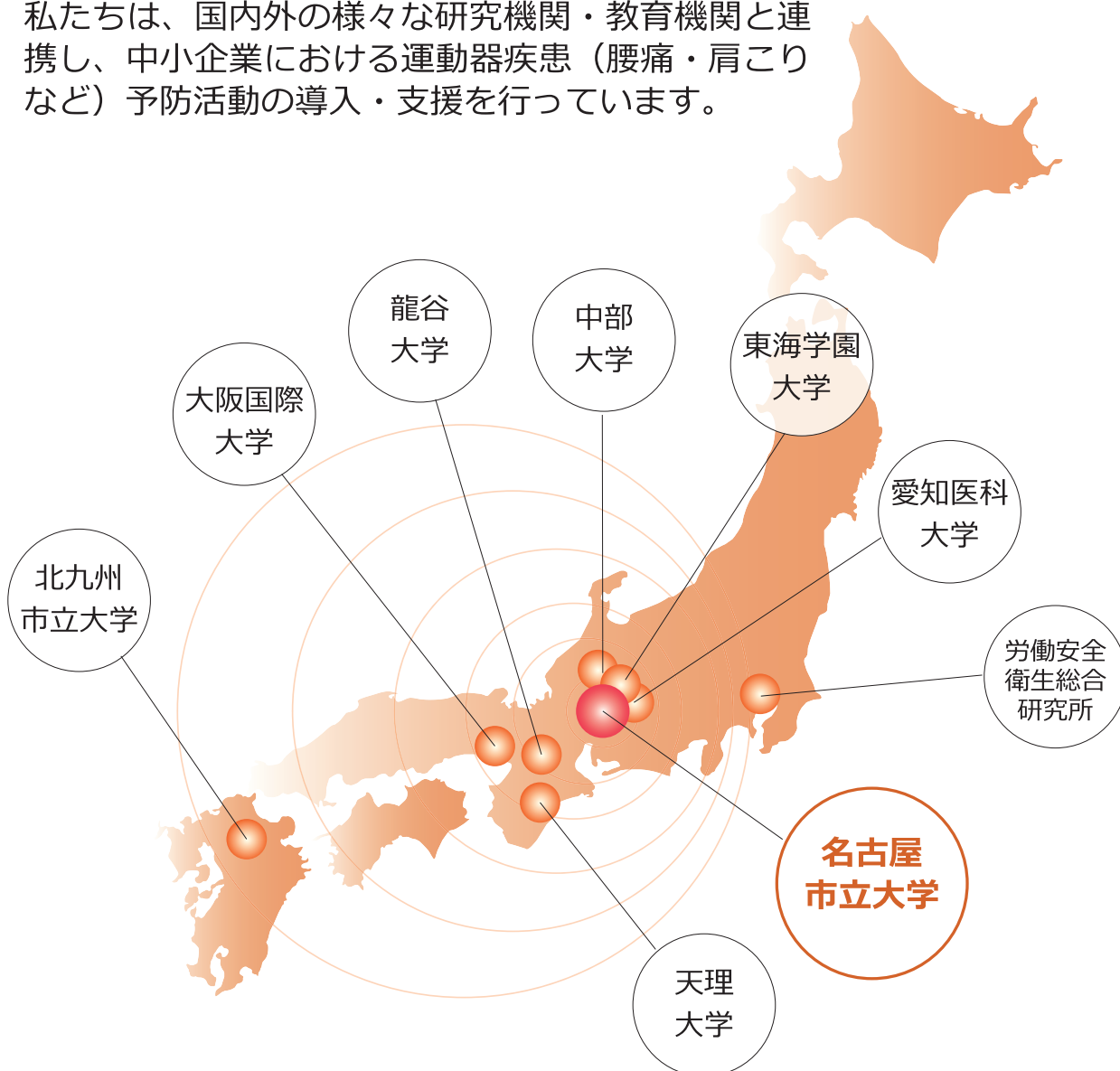
名古屋市立大学大学院医学研究科 労働生活・環境保健学分野

TEL 052 (853) 8171 FAX 052 (859) 1228

eisei@med.nagoya-cu.ac.jp

活動協力・連携体制（支援拠点）

私たちは、国内外の様々な研究機関・教育機関と連携し、中小企業における運動器疾患（腰痛・肩こりなど）予防活動の導入・支援を行っています。



【国内－中部地域】

名古屋市立大学医学研究科	榎原	毅
中部大学生命健康科学部	城	憲秀
	丹羽	さゆり
愛知医科大学看護学部	鈴木	初子
東海学園大学人間健康学部	武山	英麿

【国内－関東地域】

労働安全衛生総合研究所	久保	智英
-------------	----	----

【国内－近畿地域】

龍谷大学文学部	村田	健三郎
龍谷大学社会学部	井上	辰樹
大阪国際大学経営情報学部	佐藤	智明
天理大学体育学部	近藤	雄二

【国内－九州地域】

北九州市立大学文学部	高西	敏正
------------	----	----

【海外】

Labour Protection Department, ILO, Geneva
Dr. Toru ITANI
(元名古屋市立大学医学研究科教授)

National Institute for the Improvement of Working Conditions and Environment (NICE), Ministry of Labour, Thailand
Ms. Sudthida KRUNGKRAIWONG

Occupational Safety and Health Center, the Philippines
Mr. Batino JOSE MARIA



名古屋市立大学大学院医学研究科 労働生活・環境保健学分野

TEL 052 (853) 8171 FAX 052 (859) 1228

eisei@med.nagoya-cu.ac.jp